EVENT GUIDE

2026年 6月-7月のイベント

月イチガク③フィールドワーク **墓場放浪記in三瓶** ～古刹円城寺を訪ねる～	6/13 (土) 14:00-16:30	三瓶町の円城寺とその周辺を歩いて、石塔から見える地域の歴史を探ります。	定員：20名 料金：100円	要予約
さんべの森たんけんたい **ピザ作り＋きいちごつみ**	6/14 (日) 9:30-14:00	キャンプ場のピザ釜を使ったピザ作り体験とキイチゴ摘み体験をします。	定員：親子6組 料金：1家族800円	要予約 対象：幼児～小学生低学年を含む家族
きっずサンデー	6/21 (日) 7/19 (日)	しまね家庭の日にあわせて、きっずプラネタリウムやデジタル紙しばいなど、キッズ向けイベントが満載の1日。	定員：なし 料金：入館料 ※小中高生無料	
さわってみよう♪ **わくわくワゴン**	6/28 (日) 7/26 (日)	ふだんはさわることができない標本ですが、この日はワゴンに乗って登場！楽しいお話で生き物の不思議にせまります。	定員：なし 料金：入館料	1日2回実施 ①13:00- ②14:00-
藤井シシン氏講演会	7/5 (日) 13:15-14:45	星座のギリシア神話の講演。同氏監修のプラネタリウム新番組「黄道11星座物語」も投影します。	定員：100名 料金：入館料	要予約
月イチガク④ **大地に銀を求め三千尺** ～石見銀山の大発掘跡～	7/11 (土) 14:00-15:30	石見銀山で新たに確認された大規模な採掘跡を紹介します。	定員：20名 料金：入館料 （世界遺産センター）	要予約 会場：石見銀山世界遺産センター
夏の夜の昆虫観察	7/18 (土) 19:00-21:00	夜の三瓶山で見られる昆虫をトラップを使ったり、森の中を歩いて観察します。	定員：40名 料金：大人500円 高校生以下300円	要予約
手作りアンモナイト図鑑	7/25 (土) 14:00-15:30	オリジナル化石発掘キットでアンモナイトの化石を発掘して自分だけの図鑑を作ります。 **※1ヶ月前からWebにて予約受付開始**	定員：親子6組 料金：子ども1人あたり300円	要予約 対象：幼児～小学生低学年を含む家族
親子で作ろう工作教室 **カタカタくだり**	7/26 (日) 13:30-14:30	人形がカタカタと音を立てながら下り落ちるおもちゃを作ります。	定員：親子6組 料金：子ども1人あたり100円	要予約

要予約 このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。

三瓶自然館：0854-86-0500　三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500（さんべ縄文の森ミュージアム）　三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

※イベントが変更中止の場合はHP等でお知らせします。
※毎週土曜日の天体観測会は予約制（HPから、その他はお電話）で実施しています。
※4月～11月の毎週土曜日の「北の原お散歩ツアー」、毎週土・日曜日と祝日の「天文ミニガイド」は、入館された方を対象に予約不要で開催しています。

<隔月発行>
三瓶フィールドミュージアムニュース
編集・発行　公益財団法人しまね自然と環境財団
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501
<エコサポしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 / TEL 0852-67-3262
しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサポしまね（松江事務所）では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

Sanbe Field Museum News
さんべ発！
No.196　2026年5月号
島根県立三瓶自然館 ニュースレター

島根県立三瓶自然館サヒメル
○開館時間/9:30～17:00
○休館日/毎週火曜日
（火曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始、その他、メンテナンス休館あり



うごめく黒

男三瓶山を主峰とする三瓶山の峰々に囲まれた室ノ内にある室ノ内池。新緑の季節に訪れると、静けさの中に野鳥のさえずりが響き、岸辺には白いズミの花を見ることができるでしょう。池の水面をのぞき込むと、黒い物体がうごめき、そこからはぐれて動く黒い点もあります。その正体はニホンヒキガエルのオタマジャクシ。普段は森林で生活して、早春に産卵のために池に集まります。そして初夏の頃には3cm程度に育った大量のオタマジャクシが池の浅瀬に集まる姿を見ることができます。彼らは梅雨の雨が降り始める頃には小さなカエルになって上陸して、森に旅立ちます。大人になって池に戻ってくるのは、この大群のほんの一部なのでしょう。

三瓶山ではニホンヒキガエルをしばしば見ることができますが、地域によっては減少しており、しまねレッドデータブック2026では、準絶滅危惧種として掲載されています。室ノ内池は貴重な「楽園」と言えるのかも知れません。

01 田んぼとカエル

春、田んぼに水が張られるようになると、カエルが水辺に集まり、盛んに鳴き始めます。カエルが鳴くのは、主に仲間と出会い繁殖するためです。田んぼではさまざまなカエルを見ることができます。皆さんは、島根の田んぼに何種類のカエルが暮らすかご存じでしょうか。

島根県では、ニホンアマガエルやトノサマガエル、茶色のツチガエルやヌマガエル、アマガエルによく似たシュレーゲルアオガエル、さらに早春であればヤマアカガエルやニホンアカガエルも田んぼで見られることがあります（このうち隠岐ではニホンアマガエルとニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルの3種が分布）。この中で、私たちに最も馴染みのある種類は、やはりニホンアマガエルとトノサマガエルでしょう。

どちらも浅い水辺を好むカエルで、田んぼや池、流れのゆるやかな水路に生息しています。トノサマガエルの繁殖期は4～6月、アマガエルは4～7月で、ほぼ同じ時期に繁殖を始めます。田んぼで産卵し、水中でオタマジャクシが育つ点は共通していますが、生態にはいくつかの違いがあります。

トノサマガエルの産卵は春の1回のみで、約5週間かけてオタマジャクシからカエルに成長します。それに対しアマガエルがカエルになる期間は約3週間とトノサマガエルより短く、また繁殖期間内に複数回産卵します。また、アマガエルは指に発達した吸盤があり、木や垂直の壁も登れますが、トノサマガエルには吸盤がなく、高い場所に登るのは不得意です。その代わり、トノサマガエルは跳躍力が強く、素早くジャンプして移動できます。この違いは、近年の両種の生息状況にも影響を与えています。

今年、島根県の絶滅危惧種が掲載されている「しまねレッドデータブック」が改訂されたことをご存じでしょうか。カエル類は6種類掲載され、前回2014年版より2種類増えています。驚くことに、そのうちの1種類はトノサマガエルです。身近なカエルが絶滅危惧種として掲載されていることに、驚かれる方もいるでしょう。なぜトノサマガエルが減っているのでしょうか。

その要因は、近年田んぼの環境が変化していることにあります。昔に比べ、水を張る期間が短くなり、トノサマガエルのオタマジャクシがカエルになる前に水が干上がってしまうことや、三面張りの深い水路が整備され、トノサマガエルが壁を登れず移動を妨げられてしまうことが関係しています。アマガエルは田んぼに水がある間に産卵・成長できるうえ、水路も容易に行き来できるため、影響は少ないのです。

稲作のための田んぼは、カエルだけでなく昆虫や鳥などさまざまな生き物が暮らす環境として、昔から人々の生活と共存してきました。これからも、共存できる環境を見守って

※2025年に東日本のアマガエルは別種であることが明らかになりました。島根県を含む西日本ではニホンアマガエルのままですが、近畿以東はヒガシニホンアマガエルとして区別されています。

（学芸課　皆木宏明）


ニホンアマガエル


トノサマガエル


ヤマアカガエル


ニホンアカガエル


ツチガエル


ヌマガエル


シュレーゲルアオガエル

02 小さい満月と大きい満月

月は地球の周りをまわる衛星です。ただ、その軌道は完全な円ではなく少し歪んでいます。そのため、地球と月の距離は、近い時（約36万キロ）と遠い時（約40万キロ）があります。つまり、同じ月であっても、見かけの大きさは近い時には少し大きく、遠い時には少し小さくなっています。その違いは、直径では1割くらい、明るさは3割くらいの違いになります。

今年のなかで、地球から最も遠く小さく見える満月は5月31日から6月1日にかけての夜の月です。逆に12月23日から24日にかけての深夜の月が最も近い位置で満月を迎えます。最近では、1年で最も大きく見える満月は「スーパームーン」と呼ばれることがあります。

ただ、実際の夜空に月を二つ並べて比較することはできないため、夜空の月を眺めただけでは大きさの違いは分かりにくいかもしれません。写真に撮影したりして、比べてみてください。

（学芸課天文事業室　矢田猛士）



大きさの違う2つの満月
（三瓶自然館の15cm屈折望遠鏡で撮影）

Shimane Nature Museum of Mt.Sanbe